

1, はじめに

獣害対策における防除柵の 設置・管理の位置づけ

1, はじめに (獣害対策における防除柵の設置・管理の位置づけ)

防除柵の設置・管理における注意点

1, はじめに

深刻化する鳥獣による農林作物被害を軽減するためには、それぞれの地域で「生息地管理」、
「集落・農地の管理」、「個体数管理」の3つの対策を総合的に取り組む必要があります。

総合的な被害対策を進めるにあたり、鳥獣害対策を担当する職員には、下記の4つの能力・
知識が求められるとされています。

- ・対象鳥獣の生態・痕跡・加害傾向等に関する知識
- ・住民とともに、地域の現状や課題を整理・共有する技術
- ・防除技術・防除資材の長所や短所に関する知識
- ・適切な防除技術の使用方法に関する知識

本資料は、上記を踏まえ、防除柵を中心に下記の3点を整理することを目的としています。

- ・被害対策における防除柵の位置づけ
- ・防除柵の設置目的や設置場所ごとの長所・短所
- ・防除柵の種類、それぞれの機能、守備範囲、設置方法、設置・管理上の注意点

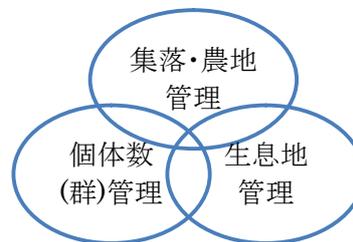
本資料が、現場の指導時にふと感じる疑問点に応え、現地で防除柵の設置・管理の普及指
導の一助となることを願っています。

◆獣害対策における防除柵の位置づけ

防除柵の設置・管理は、「集落・農地の管理」の中の一つの手段にすぎない。

特に、現在普及している防除柵では、動物の侵入を完全に遮断することは出来ないため、
防除柵の設置と併せて、他の「集落・農地の管理」や、「生息地管理」、「個体数管理」等も含
めた総合的な防除を進めていく必要がある。

- ・生息地管理 (里に寄せ付けない環境整備)
 - ・バッファゾーン (緩衝帯) の整備
- ・集落・農地の管理 (餌付け、動機付けしない環境整備)
 - ・不要残渣、生ゴミ等のエサ源を適正に処理する
 - ・農作業の方法やスケジュールの見直し
 - ・防除柵の設置・管理
- ・個体数管理
 - ・増えすぎている種の捕殺
 - ・被害を与えている個体の捕殺



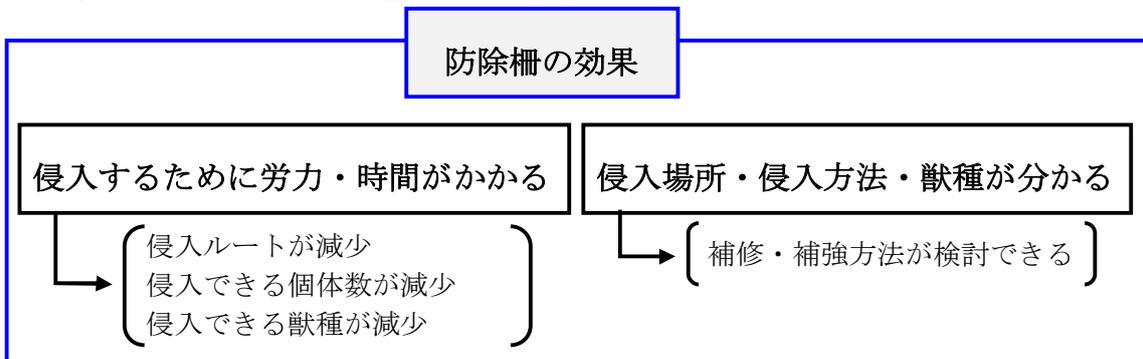
1, はじめに (獣害対策における防除柵の設置・管理の位置づけ)

◆防除柵の効果

防除柵は、城で例えるなら城壁や堀に対応するもので、被害対策の最前線であるため、その能力を最大限発揮させ、効果を持続させることが求められる。

城壁で敵の兵の侵入や攻撃を防ぎ切れないのと同様、防除柵のみで野生獣の侵入を完全に防ぐ事は不可能である。

この観点から防除柵の効果を整理すると、次の2点にまとめられる。



この2つの効果を最大限活かし、被害を軽減するために、以下の5点を念頭に置いて設置する必要がある。

- ・防除柵の種類とその特徴を理解する
- ・地形に合わせた設置をする
- ・対象鳥獣に合わせた防除柵の選定と設置をする
- ・定期的な点検・管理をする
 - ※継続的に点検・管理を行える設置ラインを選定し、柵の両側に管理道を設置する
- ・破損や侵入を初期に発見し、対策を講じる
 - ※既存の柵を補修し、新たに資材や工夫を加えて柵を成長させていく方が、新規に柵を導入するより、労力も経費も少なく済む場合が多い

侵入・破損時の考え方

樹脂ネット {

金網 {

トタン {

柵内 (農地側)
〔下層植生が残っている〕
→シカが少ない

柵外 (山側)
〔下層植生が残っていない〕
→シカが多い

侵入されても、防除柵は機能を果たしている。
(柵を越えた個体数は決して多くない)
(侵入場所も侵入方法も獣種も明らか)

| | |
|----|--|
| 対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・侵入してしまった個体の捕獲 ・侵入された箇所の補強 ・柵内での対策強化 |
|----|--|

1, はじめに (獣害対策における防除柵の設置・管理の位置づけ)

◆防除柵の種類とその役割

防除柵は、その防ぎ方から4つに分けることができる。

次に、4つの防除柵とそれに該当する一般的な柵の例を挙げるが、これら柵の防ぎ方を理解した上で柵の選定、設置、管理をすることが極めて重要である。

防除柵の種類とその役割

・わずらわしさにより、侵入を諦めさせる柵

例) 樹脂ネット、漁網、猿落君

・視界を遮り、侵入意欲を低下させる事で侵入を防ぐ柵

例) トタン、シート、寒冷紗

・強い刺激を学習させることで、侵入を防ぐ柵

例) 電気柵 (柵線型、金網電気柵、モンキーショック、白落君、獣堀君)

・強度と高さにより物理的に侵入を防ぐ柵 (物理柵)

例) 金網フェンス (溶接金網、格子金網、大型亀甲金網)

・複合柵 (それぞれの柵の機能を活かし相乗効果で防ぐ)

なお、主要な資材の特性、設置・管理に当たっての注意等については、第4章 (P 18 ~ P 63) でそれぞれの防除柵毎に詳しく説明する。

◆設置方針による分類

防除柵にはさまざまな種類があるが、その設置の方針から2つに分けることができる。一つは家庭菜園や個別の田畑への侵入を防ぐ「侵入防止柵」、もう一つは、集落や大規模な農業団地等を囲う事で、野生獣の生息地と人間の活動域を区分する「すみわけ柵」である。

防除柵には、どちらか一方の使用に特化したものや、2つの方針両方に対応できるものがある。また、2つの方針に対応できる種類の防除柵であっても、その方針によって注意すべきことが異なるため、防除柵を導入する際には、地域住民や農家と設置の目的や被害対策の方針を綿密に調整し、柵の種類や設置方法を検討する必要がある。

既存の一般的な防除柵をこの2つの観点から分けると下記のとおりである。

設置方針による防除柵の分類

・「侵入防止柵」に特化した柵 (家庭菜園や個別の農地が対象)

例) 猿落君、獣堀君、白落君、樹脂ネット、トタン、シート、寒冷紗

・「侵入防止柵」と「すみわけ柵」の両方に使用可能な柵

例) 金網フェンス (溶接金網、格子金網、亀甲金網等)、電気柵 (柵線型)
電気柵 (金網電気柵)

なお、すみわけ柵については、防除柵の種類その他、設置場所や設置ラインの選定に注意が必要なため、第3章 (P 11 ~ P 17) で、詳しく説明する。